



第5章 地域連携センターを拠点とするプロジェクト

吉川, 圭太
木村, 修二

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 16(平成29年度事業報告書):51-52

(Issue Date)

2018-03-16

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010246>



第5章

地域連携センターを拠点とするプロジェクト

平成27年度科学研究費補助金基盤研究(S) 「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立— 東日本大震災を踏まえて」の研究支援

2014年度からスタートした上記テーマの新規科学研究は、2013年度までの科学研究「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」の成果を踏まえ、東日本大震災後の新たな課題（津波、放射能被害など）及び海溝型地震への対応をさらに進め、「災害文化」形成に資する地域歴史資料学を確立することを目的としている。

2017年度は、次の5回の地域歴史資料学研究会を開催した（2017年3月以降）。第9回（震災アーカイブに関する国際研究会、2017年3月10日、於神戸大学震災文庫）、第10回（災害資料の公開に関する研究会、6月15日、於神戸大学自然系図書館）、第11回（韓国アーカイブ研究会、10月12日、於神戸大学文学部）、第12回（日伊の文化財情報システムに関する国際研究会、11月13日、於神戸大学文学部）、第13回（被災地図書館との震災資料情報交換会、2018年1月29日、於神戸大学社会系図書館）。また、4月8日には科研グループ研究会を神戸大学文学部に開催した。

また、本年度は本科研究主催による次の2つの公開シンポジウムを開催した。①国際シンポジウム「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立をめざして」（11月11～12日、於神戸大学統合研究拠点コンベンションホール）では、被災歴史

資料・災害資料の保全・活用をめぐる東日本大震災以降の実践的研究を踏まえつつ、国内外における研究成果と課題について議論した。2日間で延べ約160名が参加した。②被災地フォーラム新潟（12月2日、新潟大学）では、中越地震以降の民俗資料を含む多様な資料保全の実践や災害史研究の蓄積を踏まえて、東日本大震災以降の資料保全と歴史研究の課題等について議論した。

このほか、本科研究グループとして次のシンポジウム及び研修会に共催または協力した。共催としては、①ふくしま史料ネットシンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝える」（6月17日、於郡山市民プラザ）、②第4回全国史料ネット研究交流集会（1月20～21日、於ノートルダム清心女子大学）、③第16回歴史文化をめぐる地域連携協議会（1月28日、於神戸大学瀧川記念学術交流会館）。協力としては、兵庫県文化遺産防災研修会（7月5日、於神戸大学農学部）、兵庫県文化遺産防災研修会 in 播磨西（11月28日、於城郭研究センター）など。

被災資料・歴史資料の調査保全としては、歴史資料ネットワークと協力し、九州北部豪雨災害の情報収集及び共有につとめたほか、東日本大震災で津波被害をうけた岩手県大船渡市S家資料の整理作業に協力した。また、今年度の新たな展開としては、伊方原発関係資料の保存・整理作業を愛媛資料ネットと協力して進めた。

その他の研究活動としては、阪神・淡路大震災時の資料保全活動のデータ整理を進めたほか、附属図書館で開催された震災展示に協力した。また、2004年の台風被害で水損した地域資料の修復ワークショップを大阪芸大短期大学部伊丹学舎

にて実施するなどした。

(文責・吉川圭太)

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」

平成27年度より5ヶ年計画で開始した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」について、ここでは地域連携センターを拠点に活動してきた「歴史と文化」領域に関して述べる。

本年度の活動も、地域連携センターの諸活動と密接にリンクする形で展開してきた。なかでもCOC+事業と密接に関わった事業は次のものが挙げられる。①歴史文化をめぐる地域連携協議会の開催、②兵庫県文化遺産防災研修会の開催、③『地域歴史遺産と現代社会』発行に向けての活動、④文学部・大学院人文学研究科における学生向け・市民向け地域志向教育プログラム(地域歴史遺産保全活用基礎論A・B、地域歴史遺産活用演習、まちづくり地域歴史遺産活用講座、まちづくり地域歴史遺産活用講座オプションプログラム古文書解読初級講座)の開講、および⑤コーディネーターによる調査・研究。このうち、①②④⑤は本報告書にそれぞれ別掲されるので、ここでは③についてのみ述べる。

③『地域歴史遺産と現代社会』発行に向けての活動

平成30年1月20日付で、新たに発足した神戸大学出版会の発行物第1号となる『地域づくりの基礎知識1 地域歴史遺産と現代社会』が発行された。原稿の締め切りは、当初昨年度末の3月31日に設定されていたが、入稿の遅れが甚だしく、結局9月になってようやく出揃った。この時点で原稿は本部の地域連携推進室に送られ、神戸大学出版会により査読が行われ9月7日に合格、9月28日に実際の出版業務を行う神戸新



聞総合出版センターと契約がなされた。このため発行日は当初の予定より大幅に遅れたが、著者による初校と再校、編者による念校を経て、2017年12月中旬にようやく校了となり、12月28日には販売分以外の分の発行分が地域連携推進室の方へ納品されたとのことである。こうして1月30日に開催された神戸大学出版会設立記念シンポジウムにはなんとか間に合う格好になったが、入稿の遅れもあって各原稿間の連携が十分に行えないまま発行に至ったことは編者でもある文責者としては大いに悔いが残った。

今後は、本書を共通教育科目「地域社会形成基礎論」や人文学研究科「地域歴史遺産保全活用基礎論」の参考書として活用するよう図っていきたいと考えている。

(文責・木村修二)